

# 現代朝鮮語の終止形語尾<-네>に関する一考察

平 香織  
高麗大学校大学院

## 1. はじめに

本稿の目的は、現代朝鮮語の終止形語尾リ<-네>の意味と用法を明らかにするところにある。これまでの研究は、作例や<-네>が使用された孤立した文をもとに考察したものが多かった。しかし、<-네>が会話でしか用いられないという特徴を持つことから、本稿ではできる限り発話された状況を考慮した分析を行った。

言語資料は韓国で放映・放送された映画・ドラマのシナリオをインターネット上からダウンロードしたものを使用し<sup>2)</sup>、著しい方言は考察の対象から除外した。収集した用例の出典は本稿末尾に挙げておく。また、今回分析した用例は 676 例であり、終止形のみを扱った<sup>3)</sup>。

### 1.1 ムード、モダリティの定義

朝鮮語のムード、モダリティについては様々な議論が展開されている。まずムードの実現形態について、終結語尾で実現されるものをムード(張 1998)とするか、先語末語尾で実現されるものをムード(李 1990)とするか、あるいはこの両方を含めて実現されるものをムード(徐 1996)とするかなど異なった見解が見られる。また、モダリティについても「叙法的意味」(徐 1996)や「様態(法)」(張 1985,1998)などモダリティを指す名称が研究者によって異なり、朝鮮語におけるムード、モダリティの定義は未だ明確でないとと言える<sup>4)</sup>。

本稿では、ムードを「話者の心理的態度が、一定の用言の活用形によって表される文法範疇」とし、モダリティを「ムードに関わる用言の屈折形態や語尾、あるいは文末形態などによって表され、主に、文の命題内容や聞き手に対する話者の心理的態度が表される意味領域」と定義しておく。またモダリティに関して野間(1988:11)は、事態に対するモダリティ(対事態モダリティ)と聞き手に対するモダリティ(対聞き手モダリティ)があるとしているように本稿でもモダリティには二つの側面<sup>5)</sup>があるという立場で論を進めていく。

## 2. 先行研究

菅野(1988:1023)は、表 1 に示したように<-네>には直説法叙述形上称<-네요>と直説法叙述形等称<-네>の二つがあるとしている。

表 1. 直接法終止形語尾の分類 菅野(1988:1023)

待遇法		上称	中称	等称	下称
直 説 法	叙述形	-습니다/-습니 다, -나이다, - 네요	-오/-소, -우/-수	-네, -르세, - 이	-니다/-는다, -다, -라
	疑問形	-습니까/-습니 까, -나이가, - 나요, -니까요, -는가요		-나, -니까, - 는가	-냐, -느냐, - 니
			-는지요, -는지요		-는지, -는지
	疑叙 問述 形	-아요/-어요, -에요		-아 /-어, -야	

菅野(1988:1035)は「-아요/-어요を-습니다/-습니다, -네요などと区別して親しい上称形と呼ぶことにする」と述べている。この記述から菅野は<-네요>を親しい上称形と見なしていないことがわかる。しかし、本稿では半言形の<-네>(つまり-요が付くことで上称形<-네요>を構成する)を認め、<-네>には等称形の<-네>と半言・上称形の<-네(요)>という形態が存在すると考える。

直説法叙述形半言と直説法叙述形等称は同一形態であるため、この二つについてこれまでどのような研究がなされてきたのかを 2.1 で概観し、2.2 では主に研究の対象とされてきた半言・上称形の<-네(요)>に関する先行研究を概観する。

## 2.1 半言形と等称形の<-네>に関する先行研究

本節では半言形<-네>と等称形<-네>の意味、用法がどのように区別されているかを高(1974)、李,蔡(1999)を基に概観する。

高(1974)は、等称形の<-네>を「直接説明法」、半言形の<-네>を「感嘆法」と分類し、区別している<sup>6)</sup>。

(1) 애고 망측해라. 「아이비끼」가 뭐야요? 온 별소리를 다 들쥘네.

(高 1974:70)

「ああ、なんてえげつないことを。「あいびき」って何ですか? とんでもない話を聞くことになる。(とんでもない話をするもんだ)」

高(1974)は例文(1)を、親しい上称形を使う若い恋人同士の対話として挙げており、ここで使用されている<-네>を等称形と解釈している。その理

由を、この文体法(等称形の<-네>)が感嘆的であり、聴者を直接意識する必要がないため-요が統合されないと説明している。しかし、若い恋人同士の会話、-요が使用される関係ということを考えると、ここで使用されている<-네>を等称形と見るのは疑問である。また、聞き手を意識しているかどうかという問題は、使用される状況によって異なるものであり、この説明では二つの区別が明らかではない。この点に関して高自身も、直接説明法の<-네>は陳述よりも感嘆的用法が優勢であるとし、「説明法と感嘆法が形式と意味においてその境界が明確でない」(1974:85)と述べている。

一方、李,蔡(1999:256)は半言と等称の<-네>はその形態が同一であるが用法によって区別されるとし、以下のように説明している。

半言: 独り言もしくは、独り言の形式を借りた間接発話行為(indirect speech act)を表し、間接発話行為の場合、-요が付加でき、上称形を構成する。(cf.例文2)

等称: 聞き手を設定した対話で用いられるが-요が付加できない。(cf.例文3 a,b)

(2) 영화가 우산을 두고 갔네.

「ヨンヒが傘をおいて行ったなあ。」

(3) a. 그럼 난 이만 가보겠네. 잘 있게.

「じゃあ私はこれで行く。元気で。」

b. 이렇게 자네를 다시 만나다니, 감개가 무량하네.

「こうやって君にもう一度会えるとは感慨無量だ。」

李,蔡の基準によれば、例文(2)は、独り言として用いられていることから半言の<-네>として解釈しており、例文(3a)(3b)は、聞き手を想定して用いられていることから等称の<-네>として解釈している。また、等称として使用される場合には、例文(3'a)(3'b)のように-요が付加できないとしている。

(3') a. \*그럼 난 이만 가보겠네요. 잘 있게.

b. \*이렇게 자네를 다시 만나다니, 감개가 무량하네요.

例文(3a)(3b)は、終止形命令法等称の<-게>や<자네>(君)といった語が一緒に使用されているため<-네>が等称形であると判断することが可能なのである。また前述したように、使用される状況や場面を考慮しない限り、独り言か、聞き手を想定しているかというのは明らかにならない。

本稿では、主に半言・上称形の<-네(요)>について考察していくが、用例を通してこの二つの形態の使用の違いが見られる場合にはそれについて

も言及していく。

## 2.2 -네(요) ㉑に関する先行研究

-네(요)に関する先行研究では「驚きと感嘆」(윤석민 1996:85), “in the case of ney, the surprise comes from the discovery of a state of affairs contrary to expectation” (「予想に反する出来事の発見から起こる驚き」) (K.Lee 1993:27), 「現在の知覚」<sup>㉒</sup>(張 1985:80), “factual realization” (「事実を認識すること」) (H.Lee 1991:403) といった特徴づけがされてきた。また伊藤(1989,1990), 生越(1997)がテンスを論じる際に-네(요)の用例を交えながら考察しているように, -네(요)は単にムード形式ではなく, テンスとの関わりの中で意味をなしていると考えられる。

本稿では, これまでの先行研究の特徴づけによって-네(요)の意味, 用法をどこまで説明し得るのか, またテンスとの関わりの中で-네(요)がどのような意味を表しているのかを中心に考察していく。

## 3. 分析

本章では, 実際の用例に基づいて-네(요)の意味, 用法について考察していく。考察に当たって形態上-네(요)と-졌네(요)に分類し, 事態の主体<sup>㉓</sup>に着目した。

本稿で使用した用例を主体別に分類すると以下ようになる。

表 2. 主体別頻度 [全体数 676 例]

話し手	聞き手	第三者	不明
162 例	176 例	318 例	20 例

表 2 からわかるように, 主体が第三者である場合が多い。主体が第三者というのは人間に限らず, 以下の例のように物や事柄の場合もある。

(1) “어, 여기 잔 비었네. 자 한잔 더...” (키)

「あ, コップが空いているね。さあもう一杯...」

(2) (窓の外を見ながら) “바람이 많이 부네요.” (물)

「ずいぶん風が吹いていますね。」

また, 事態の主体が聞き手か第三者かを判断する際, 発話された前後の状況を考慮しなければならない。例えば:

(3) (シャッターを下ろし, 鍵を閉める張女史, その時通り過ぎるセマン)

세만: “어유, 오늘은 늦게 들어가시네.” 장여사: 보지 않고. (좋)

세만: 「ああ, 今日は遅いお帰りだね。」 張女史: 見もせずに。

(4) 현덕: “박지섭씨 잘 해봐. 그만한 뺨이 어땀어...”

지섭: “전 그런 속물이 아닙니다. 관심 없어요. 커피 한 잔 마시겠습니다”

다.” (나가는)

도영: “역시 지겹썩 확실한 남자네요.” (좋)

ヒヨンドク 「パクチソ프さん, うまくやれ. それほどの後ろ盾がどこにある...」

チソプ 「私はそんな俗っぽい奴ではありません. 関心ありません. コーヒーを飲んできます。」 (出て行く)

トヨン 「やっぱりチソプさんは本当の男性ですね。」

例文(3)は, セマンが張女史に話しかけており, 張女史がそれを無視することによってセマンの発話は独白のようになってしまうが, 発話時においては張女史に話しかけているため, 主体は聞き手であると言える。一方, 例文(4)はチソプが出て行くことによって, つまり発話の場からいなくなることによって, トヨンの発話の主体が第三者になってしまうのである。

不明としたものは以下のような例である。

(5)장여사: “그래, 큰 따님 사윗감 고르는 건 잘돼 가요? 또 한 명이 새로 들어왔다면서요. 어때요?”

세만: “글썩, 키는 훗칠하고 예의도 바른 게 먼저 들어온 녀석보단 나은 것 같긴 한데...”

장여사: “그럼 됐네요. 이제 등장님 차례네요.” (좋)

張女史 「それで, 一番上の娘さんのお婿さん選びはうまくいっていますか? また新しい人が一人来たそうですね. どうですか?」

セマン 「そうだな, 背はすらっとしていて礼儀も正しいところは最初に来た奴よりはいいような気がするんだけど...」

張女史 「それならいいですね. 今度は洞事務所長さんの番ですね。」

以下, 3.1 では-네(요)について, 3.2 では-졌네(요)について考察する。

### 3.1 -네(요)の意味, 用法について

本節では-네(요)について, とり得る品詞や用言が非過去形の場合, 過去接尾辞Ⅲ-ㄴ-を含む場合の意味, 用法について考察する。

まず, 主体が話し手で, 動詞と共起する場合の用例を見ていこう。

(6) “아 제길 그거 부담되네... 춘기집엔 줄 알았더니... 완전 신데렐라였잖아...” (사)

「くそつ, 負担だな... 田舎娘だと思ったのに... 完全にシンデレラだったじゃないか...」

(7) “내가 뭘 잘못했지? 도무지 이해가 잘 안 가네.” (멋)

「何か俺, 間違ったか? まったく理解できないなあ。」

(8) “마음에 든다니 다행입니다. 조아씨 처음 봤을 때가 생각나네요.” (좋)

「気に入ったならよかったです。チョアさんと初めて会った時が思い出されます。」

- (9) “뭔가, 승욱이한테 당한 거 같은 생각이 드네...” (췌)

「何かスウクにやられたような気がするな...」

- (10) “좋은 노래 두 번 들으니깐 질리네요.” (사)

「いい歌も二回聞くとうんざりしますね。」

例文(6)－(10)は非過去形の動詞と共起した例であるが、これらの動詞は「負担になる」「理解できる」「思い出される」「気がする」「うんざりする」といった主体の心的活動や内的状態を表す無意志動詞<sup>10)</sup>である。心的活動を表す動詞について伊藤(1989:20)は「それがいつからはじまっていつ終わるかがはっきりせず、アクチュアルな一時的な状態から、次のひろげられた現在に持続することがらとのあいだに連続的に分布しているように見える」と述べている。これに基づくと、心的活動を表すものの中でも後者にあたるもの、つまり次の広げられた現在に持続することがらを表すと思われる動詞には-네(요)が使用できないようである。例えば：

- (11) “환유씨. 오랫동안 당신한테 못했던 말이 생각났어... 사랑해.” (편)  
\*사랑하네.

「ファンユさん。長い間あなたに言えなかった言葉が思いついた...愛してる。」

- (12) “그 때 열심히 했어야 했는데... 지금 후회해.” (作例)

\*후회하네.

「あの時一生懸命やらなきゃならなかったのに...今、後悔してる。」

例文(11)(12)の「愛する」「後悔する」といった動詞はこれから先、その心的活動、内的状態がどこまで続くのかがはっきりしないため、-네(요)が使用できないようである。

用言が無意志的であることと関連して、形容詞と共起した例を見てみよう。

- (13) “응, 누군 좋겠다. 나도 미국으로 시집이나 갈까?” “막상 가버리니까 좀 서운하긴 하네.” (멋)

「うーん、誰かさんはいいわね。私もアメリカに嫁にでも行くか?」「いざ行ってしまうと何となく寂しいわね。」

- (14) “저번 팀에선 그냥 넘어갔겠지만 전 달라요... 상사의 허락도 없이 내 이름을 팔았다는 건 불쾌하네요. 조심해 주세요.” (사)

「前のチームではそのまま見過ごしたでしょうけど私は違います...上司の許可もなく私の名前を売り物にしたことは不愉快です。気をつけてください。」

- (15) (電話で) “그러니까 제 말은 새 핸드폰을 분실한 핸드폰 번호로 받을

수 있냐는 거죠... 아 답답하네 정말...” (연)

「だから私が言っているのは新しい携帯を、なくした携帯の番号で受け取れるのかっていうことですよ。ああ、じれったいなあ、ほんとに...”

(16) “한번 보고 두번 보고 자꾸만 보고 싶네!!” (멋)

「一回会って、二回会って何度も会いたいなあ!!」

(17) “근데... 실은 방금전에 난초화분 옮기다가 하나 깨뜨렸어요. 어제부터 이상하네? 내가 왜 이러지?” (멋)

「だけど... 実は今さっき蘭の植木鉢を移動しようとして一つ壊したんです。昨日からおかしいわね? 私どうしたのかしら？」

例文(13)－(16)は感情形容詞，(17)は属性形容詞とみなされるものである<sup>11)</sup>。(16)は分析的な形 I-고 싶다(～したい)が用いられているが，自発的な感情と読み取れ，いずれも発話時における話し手の感情や，自分自身のある状態に気づいたことを表している。

次に意志動詞と共起した例を見てみよう。

(18) “안 그래도 제가 전화 드리려구 했는데 여기서 뵈네요.” (좋)

「そうじゃなくても私がお電話しようと思っていたんですけどここで会いしましたね。」

(19)(一人，焼酎を飲みながらため息をついて) “... 인간 권오준이 이렇게 망가지네.” (좋)

「...人間クォンオジュンこうやって壊れるんだな。」

例文(18)(19)は「会う」「壊れる」といった非過去形の意志動詞と共起した例である。文脈から(18)は話し手の意志とは関係なく偶然会ったことが読み取れ，(19)も話し手の意志に関わらず，自分が壊れていくことに気づいたことを述べている。ここでは意志動詞と言っても，話し手の意志に関係なくある状況に至ったことに気づいたことを表していると言える。

では，用言に過去接尾辞-ㅁ-をとった場合はどうだろう。

(20) “연료 5 만원 광택제 만원. 6 만원입니다.” “어쩌나 지갑을 두고 왔네? 니들 돈 있니? 카드도 괜찮고.” (멋)

「燃料 5 万ウォン，光沢剤 1 万ウォン。6 万ウォンです」「どうしよう財布を置いて来たな? お前たち金あるか? カードでもいいし。」

(21)희석: “엄마, 저 윤해영피디랑 사귀고 있어요.” 영미:(무표정, 탄소리)

“아이구, 내 정신! 오늘 니 아버지한테 전화도 안 했네?” (멋)

ヒソク「母さん，俺，ユンヘヨン PD と付き合っているんだ。」ヨンミ(無表情，他のことを言って)「あら，あたしったら! 今日あんたのお父さんに電話もしなかったわね?」

(22) “참, 자료실에 먼저번 도면 있는데 감박했네.” “제가 갔다 올게요.”

(중)

- 「あっ、資料室に前の図面があるのを忘れてたわ。」 「私が行ってきます。」  
(23) “요즘에는 팔에 힘이 하나도 없어서 편지 쓰기가 좀 그랬는데, 이렇게 좋은 방법이 있다는 걸 몰랐네.” (편)  
「最近手に全然力が入らなくて手紙を書くのが大変だったんだけど、こういういい方法があるとは知らなかったよ。」

(20)(21)は「来る」「電話をする」という意志動詞と、(22)(23)は「うっかりする」「知らない」という無意志動詞と共起しており、過去接尾辞-ㅁ-が含まれる場合、意志動詞、無意志動詞の制限を受けずに共起可能である。しかし、ここでも「財布を置いてきた」「電話をしなかった」ことに「今、気づいた」ことを述べており、話し手の意志は読み取れない。「今、気づいた」ということは波線部分の ‘어쩌나’ ‘아이구, 내 정신’ ‘참’ といった語が共起していることによってもわかるだろう。また、過去接尾辞-ㅁ-が含まれると言っても、過去のことを述べているのではないことがわかる。

過去接尾辞-ㅁ-との共起についてもう少し考えてみよう。先に見た心的活動、内的状態を表す無意志動詞の例文(6)–(10)は過去接尾辞-ㅁ-をとり得ないという母語話者の回答が得られたが、以下のような状況ではとり得るという意見が聞かれた。

- (6) (その仕事からやっと逃れたばかりの発話) “그거, 정말 부담됐네.” (作例)  
「それは本当に負担だった。」  
(7) “이 책 저 책 찾아서 비교해 보고서야 겨우 이해가 갔네.” (作例)  
「あの本この本と探して比較してみてやっと理解できた。」  
(8) “이제야 생각났네요.” (作例)  
「やっと思い出しました。」  
(9) “그제서야 승욱이한테 당한 거 같은 생각이 들었네.” (作例)  
「今になってスンウクにやられたような気がする。」  
(10) “이젠 그런 소리 질렀네요.” (作例)  
「そんな話はもううんざりします。」

(6)は仕事を終えたばかりの時の発話、また ‘겨우’ ‘이제야’ ‘그제서야’ ‘이젠’ などの副詞から(7)(8)は話し手がある行為を通して理解したり、思い出したりすることができた時の発話、(9)(10)は過去に起こった出来事を思い出したり、以前に聞いた話を再び聞くことによって生じた話し手の感情を発話しているものである。(9)のように、過去の出来事を回想することによって生じた心的活動、内的状態を述べる際にも-네(요)が使用できるようである。



なお、今回の用例の中で、過去接尾辞-ㅁ-をとった形容詞は二例しかなかった。一つは蓋然性接尾辞 I -ㄹ-と共起した場合であり(남다르셨겠네요), もう一つは次の例である。

(24) “난 아들만 내리 다섯이라 생각이 짧았네.” (멋)

「私は上から下まで息子5人だから考えが足りなかったなあ。」

例文(24)の‘짧다’ (短い)は属性形容詞に分類されるもので、(20)–(23)の場合と同様、ここでは「考えが足りなかった」ということに話し手が「今、気づいた」ことを述べている。形容詞の過去形という点で、(13)–(17)は過去形をとり得ないという母語話者の意見が聞かれたが、以下のような状況では母語話者の間でも意見が分かれるようである。

(25) “오늘 회사에서 좀 복잡한 일이 있어서 불쾌했네요.” (作例)

「今日会社でちょっと煩わしいことがあって不愉快でした。」

(26) “어제 만난 그 여자 말인데, 너무 느릿하게 말하는 거야... 진짜 답답했네.” (作例)

「昨日会ったあの女の子なんだけど、すごくゆっくり話すんだよ...ほんといらいらした。」

(25)(26)を可能であるとする母語話者によると、(25)は上称形ではあるがあまり丁寧ではない意味で、(26)は独り言を想定した場合に使用可能であるという意見が聞かれた。形容詞の過去形と-네(요)の共起関係については今後さらに検討していかなければならないが、この二例から、過去に起こった感情を回想し、それ自体を現在の発話時に呼び戻して発話する際にも-네(요)が使用できると言えそうである。

以上の考察から、主体が話し手の場合、無意志的な用言と共起し、発話時における話し手の感情やある事態に気づいたことを述べる際に使用される。また、過去に生じた感情を回想し、それ自体を現在に呼び戻して発話する際にも使用されるようである。

次の三例は、起こった出来事に「今、気づいた」ことによって話し手の後悔を表しているとも取れる例である。

(27) “언제 왔다고 반말이에요. 걱정해 줄 사람 있는데 괜히 걱정했네.”

(좋)

「いつ知り会ったっていつってパンマルですか。心配してくれる人がいるのに余計な心配をしたわ。」

(28) “어라?... 어디 갔어?... 일거수 일투족을 관찰해야 하는데 놓쳐버렸네.”

(좋)

「あれ?... どこ行ったんだ?... 一挙手一投足を観察しなきゃならないの

に逃してしまったなあ。」

- (29) 장여사: “저... 박여사님... 동장님 오셨어요.” 세만: “무슨 일이에요?” 박  
여사: “하여간 널까지 천만원 안 놓으면 나두 가만 안 있을 테니까  
그렇게 알아요!” (가는) 장여사: “동장님께 별 꼴을 다 보였네요...”  
(쫄)

張女史「あの... 朴女史... 洞事務所長さんがいらっしゃいました。」セマ  
ン「何事ですか？」朴女史「いずれにしても明日まで 1000 万ウォン出  
さなければ私もじっとしていないからそう思っていてください!」(出て  
行く) 張女史「洞事務所長さんに とんでもないところを見せてしまいましたね...」

先に見た例文(20)－(23)と比較すると, (27)－(29)は話し手がある出来事  
に単純に気づいたことを発話しているというよりは‘괜히’ (いたずらに)  
‘관찰해야 하는데’ (観察しなければならないのに) ‘별 꼴’ (とんでもない  
姿) という語と相まって「心配しなければよかった」「見るべきものを見逃  
してしまった」「見せてはいけないものを見せてしまった」といった話し手  
の後悔が読み取れる。

次に, 事態の主体が聞き手の用例を見ていくが, この場合, 先行研究で挙  
げられてきた「感嘆」や「予想に反する出来事の発見から起こる驚き」といっ  
た意味を見出すことができる。まず用言が動詞の場合を見てみよう。

- (30) “니네 집 가 보니까 넌 좀 나하고 다른 사람같이 살길래... 내 마음  
애기하기가 자신 없더라.” “날 다 아는 것처럼 말하네?” (사)

「君の家に行ってみたら君は俺と違う人のような暮らしをしているから  
...俺の気持ちを話す自信がなかったよ。」「私のこと全部知っているよう  
に話すわね?」

- (31) “여자? 아~ 나 지금 만나는 애? 나 개랑 결혼할 생각 없어. 너랑 몇  
년은 더 살 거니까 걱정 마. 아~ 자식 어린애처럼 별 걸 다 걱정하  
네...” “아니... 그게 아니구...” (멋)

「女? ああ, 俺が今から会う奴? 俺そいつと結婚する気はない。お前とあ  
と何年間かは暮らすつもりだから心配するな。ああ, こいつも子供みた  
いに何でもないことを 心配するなあ...」 「いや... そうじゃなくて...」

- (32) “아줌아! 여기 햄 사리 좀 더 주세요.” “유피디... 햄을 굉장히 좋아하  
나 봐? 부대찌개 진짜 잘 먹네. 많이 먹어.” (멋)

「おばさん! もうちょっとハムと麺を下さい。」「柳 PD...ほんとにハムが  
好きなようね? プデチゲほんとによく 食べるわね. たくさん食べて。」

- (33) 정원: “오랜만이다.” 지원: “응.” 정원: “집에 왔니?” 지원: “응.”  
정원: “하나도 안 변했네.” 지원: “오빠도, 나 같게.” (크)

「久しぶり。」「うん。」「家に来たのか?」「うん。」「一つも 変わってない

な。」「お兄さんも。あたし行くね。」

- (34) “아줌마도 진짜 예쁘고 멋있으세요. 와~ 스카프도 되게 예쁜 거 하  
셨네요?” “그래? 그렇게 예뻐?” (멋)

「おばさんも本当にきれいで素敵です。わあ、スカーフもすごくきれいな  
ものをしましたね?」「そう?そんなにきれい?」

(30)–(32)は動詞の非過去形と、(33)(34)は動詞の過去形と共起した例であるが、いずれも話し手が聞き手の言動を直接見たり、聞いたりすることによって知ったことを-네(요)を使って発話しているのがわかる。また、(33)(34)のように過去形と共起しているとは言っても、過去に起こった出来事について述べているのではない。

次は形容詞の場合である。

- (35) 경희: “정말 유치하네요.” 성주: “뭐가?” 경희: “사람들 앞에서 꼭 그렇게 망신을 줘야 해요?...” 성주: “... 너야말로 유치하구나, 정말.(키) 키ョンヒ「本当に幼稚だわ。」 ソンジュ「何が?」 키ョンヒ「他の人の前でどうしてもあんなふうに恥をかかせなきゃいけないの?...」 ソンジュ「...お前こそ幼稚だな、まったく。」

- (36) (電話を受けて) 지섭: “네, 개발실 박지섭입니다. 네, 괜찮습니다. 그럼 점심 때 뵙죠.” 조아: “요즘 지섭씨 무척 바쁘네요 점심 때마다?” (쑤)

チソプ「はい、開発室のパクチソプです。はい、大丈夫です。それではお昼にお会いしましょう。」 チョア「最近チソプさんとても忙しいですね、お昼のたびに?」

主体が聞き手の場合、共起する用言の種類に関係なく、聞き手の言動を話し手が直接見たり、聞いたりしたことを-네(요)を使って発話し、状況によって「感嘆」や「予想に反する出来事の発見から起こる驚き」という意味が現れる。指定詞、存在詞と共起した場合も同様である。

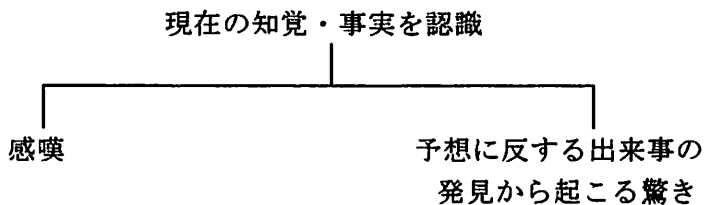
- (37) 하균: “하긴... 내 이름만 듣고... 키워 달라고 오는 작가들이 많긴 해... 뭐... 작가계의 지존이라나?... 하하.” 희석: “야 ~ 김작가님 은근히 유명인이시네.” (멋)

ハギョン「もっとも...俺の名前を聞いて...育ててくれって来る作家たちが多いことは多い...まあ...作家界の至尊とでもいうのかな?...はは。」 ヒソク「いやー、金作家はひそかに有名人だなあ。」

- (38) “조이사님, 저 왔습니다. 아이, 선배님도 계셨네요...” “으응... 오랜만 이야.” (생)

「チョウ理事、戻りました。ああ、先輩もいらしてたんですね...」「おう...久しぶりだな。」

さて、これまでの先行研究を振り返ってみると、「現在の知覚」や「事実を認識すること」と「感嘆」や「予想に反する出来事の発見から起こる驚き」というのは異なる次元のものであることがわかる。主体が聞き手の場合、話し手が何かを見たり、聞いたりするという「知覚」行為によって「事実を認識」し、その時々が発話状況で「感嘆」や「予想に反する出来事の発見から起こる驚き」という意味が現れる。例文(34)は、きれいなスカーフをしているのを話し手が実際に見て、そのことを-네(요)を用いて発話することで、その発話が「感嘆」を帯びたものになっているし、例文(38)は、話し手は先輩が来ていることを予想していなかったが、実際に先輩が来ているのを見ることで-네(요)を使った発話が「驚き」の意味を表すと解釈できる。このように考えるとこれまでの先行研究は：



と表すことができる。-네(요)は「現在、知覚したこと」や「認識した事実」について述べる際に使用され、個々の発話状況により「感嘆」や「予想に反する出来事の発見から起こる驚き」という文脈の意味が現れると考えられる。

ここで主体が話し手の場合を振り返ってみよう。例文(10)では二回も同じ歌を聞くという「知覚」によって「うんざりする」という感情が起こり、それを話し手が認識した際に-네(요)が使用されたと解釈できるが、発話状況から「感嘆」や「驚き」といった文脈の意味は読み取れない。例文(28)では探している人がいないことを実際に見ることで「知覚」はされているが文脈的意味としては「後悔」を表している。このように、発話された状況によって様々な文脈的意味を付すことは可能であるが、その一つ一つを-네(요)の特徴として挙げることはできない。また、例文(19)では、話し手が何を知覚したために「壊れる」と思ったのかが明らかではないし、例文(21)は直前の聞き手の発話と全く関係のないことをわざと発話したものであり、「知覚」と関連付けてどう捉えるかを考え直す必要がある。どこまでを「知覚」と捉えるか。単に「思い出す」という行為も知覚に入るのか。このような点で張(1985)の「知覚」という言葉はあまりにも漠然としていると言える。このような問題を念頭に置きながら、主体が第三者の場合を見ていこう。

(39) “조아씨, 술 많이 취한 모양이네요. 걸음두 제대로 못 걸구 비틀 비틀하네.” (중)

「チョアさん、ずいぶん酔っているようですね。ちゃんと歩けないでふ

らふらしている。」

- (40) “운조아씨 어디 갔어?” “글쎄요. 계속 안 보이네요.” (종)  
「ウンチョアさんどこ行った?」「そうですね。ずっと見えませんね。」
- (41) “이것 좀 봐! 누가 편지를 직접 갖다 댔네!” (멋)  
「ちょっとこれ見て!誰かが手紙を直接置いていった!」
- (42) “네! 여보세요?... 아이, 끊겨 버렸네 이거!...” (사)  
「はい, もしもし?...ああ, 切れてしまった!...」
- (43) 재석: “반찬 좀 푸짐하게 갖다 주세요. 사람이 몇인데... 상이 초라하네.” 아줌마: (들은 척도 안 하고 가 버리는) 재석: “참 불친절하네. 일인분 시키면 손님도 아닌가?” (멋)  
チェソク「おかずをたくさん持ってきて下さい。何人いると思っているの...食卓がみすぼらしいな。」お婆さん: (聞こえないふりをして行ってしまふ) チェソク「まったく不親切だな。一人分頼んだら客でもないのか?」

例文(39)(40)は動詞の非過去形と, (41)(42)は動詞の過去形と, (43)は形容詞の非過去形と共起した例である。これらは全て話し手が実際に見たり, 聞いたりしたことについて発話されており, これまでの先行研究での特徴づけがそのまま適用されるといってよい。しかし, 前に提起した問題と同様に, 次の例文は先行研究の特徴づけで説明することが難しいだろう。

(44)(みんなが集まっている食卓に入ってきて)

“대길은 좀 더 재워야겠어요. 피곤한지 못 일어나네요.” (종)

「テギルはもう少し寝せておかなければなりません。疲れたのか起きられませんが。」

(45)재석: “저희 중학교 때 급훈이 희망을 갖자...였거든요. 이 말이 너무 마음에 들어서...저 늘 만나는 사람들에게 이 얘기하거든요.” 여자:

“네... 이 자리에서 커피 마시는 것도 얼마 안 남았네요...” (멋)

チェソク「中学校の時, クラスの標語が希望を持とう...だったんです。この言葉がすごく気に入って...僕, 会った人にいつもこの話をするんです。」女「ああ...この席でコーヒーを飲むのもあと少ししか残っていないですね...」

例文(44)は, 実際に話し手がテギルを見てきて, 起きられそうもないということ聞き手に伝えている例であるが, 知覚した場に聞き手が存在しないため, 知覚してすぐに発話されたものではない。一方, 例文(45)は聞き手の話を聞いたが, それとは全く関係のないことを話している。話し手がチェソクの話聞いて「これから先のこと」を思い描き「...少ししか残っていない」という発話に至ったと考えられるかもしれないが, チェソクの話がその発話

を引き起こす直接的な原因になったとは考えにくい。このような用例をどのように説明するか。(44)の場合、話し手が知覚したことは発話時においてすでに過去の出来事になっているが、それを話し手が現在の発話時に呼び戻して発話していると考えられ、(45)は-네(요)を使った発話に至る原因が何であれ、話し手が自身の内的な変化や突然起こった感情を発話することによって「今、私はこういう考えに至った」ということを示していると言える。

これまで見てきたように-네(요)は、話し手の一時的に起こった感情やある状態に気づいたことを述べる場合や、話し手が見たり、聞いたりして知ったことを述べる場合に使用される。また、過去に起こった出来事や感情を回想し、それ自体を発話時に呼び戻して発話することも可能なようである。つまり「話し手がある事態を発話時において認識したことを表す」場合に-네(요)が使用されると考えられる。

### 3.2 -ㄹ네(요)の意味, 用法について

本節では、蓋然性接尾辞 I -ㄹ-と共起した場合の-네(요)について考察する。まず、-ㄹ-に関して張(1985)、野間(1988)の先行研究を概観し、その後、事態の主体別に用例を検討していく。

-ㄹ네について張(1985:136)は「知覚」の意味を持つ-네と-ㄹ-が共起した場合、-ㄹ-は「結果推量」の意味を持ち、結果を推測している場合(46a)は可能であるが、原因を推測している場合(46b)は使用できないとしている：

(46) a. 전화가 고장난 걸 보니 또 순이한테 전화 못하겠네.

「電話が壊れたところを見るとまたスニに電話ができなさそうだな。」

b. \*오늘 순이한테 전화 안 하는 걸 보니 전화 고장났겠네.

「今日スニに電話をしなるところを見ると電話が壊れたんだろう。」

(張 1985:136)

可能性を内包した話者の意識の状態を記述できるとして：

(47) a. 오늘은 정말 미치겠네.

「本当に今日は狂いそうだ。(やってられないな)」

b. 이제는 알겠네.

「今になって理解できる。」

(張 1985:136)

が可能であり、また、話者の未来の行動が-ㄹ네で表現された場合、外部の情報や事実から推測される話者自身の行動を表し、[知覚]の意味を持つ-네に結合された-ㄹ-は[意図]の意味を持たないとしている。

(48) 나도 내일 가겠네.

「僕も明日行くだろう。」

(張 1985:136)

張の考察は-ㄹ-に重点を置いており、また、-네の意味を「知覚」として

いるため再度検討する必要がある。

一方、野間(1988)は하짚다形, 엳짚다形, 疑問形に分類し、事態の主体や共起する用言に着目した考察から하짚다形を4つに分けている。

a) 하짚다形

主体は話し手的	意志動詞的な用言	無意志動詞的な用言
	去就を述べる文	境遇を述べる文
主体は非話し手的	動詞的な用言	形容詞的な用言
	帰結を述べる文	評価を述べる文

b) 엳짚다形 過ぎ去ったことを思いやっけて述べる(あるいは反実仮想を述べる)

c) 疑問形 事態を將然的なものとするかどうかという聞き手の主観的な判断を尋ねる(反語となるもの多し)

これら a-c の用法は、一元的に捉えることが可能であるとし、하짚다が表す機能を「事態を將然的なものであると話手が主観的に判断することを示す形式である」(1988:51)と主張している。

本稿で扱った-짚네(요)の用例数は、全体 676 例中 93 例であり、主体が話し手の場合が 52 例、聞き手の場合が 11 例、第三者の場合が 28 例、不明としたものが 2 例であった。

まず、主体が話し手の例を見ていこう。

(49) “안 팔면 손님은 지하철 못 타실 거구 걸든 택시를 타든 그 뒤는 잘 모르짚네요.” (사)

「(切符を)売らなければお客さんは地下鉄に乗れないでしょうから、歩くかタクシーに乗るか、その後はよくわかりません。」

(50) “야,야,야 조용히 해! 시끄러 죽짚네...” (ㅋ)

「おい、おい、おい静かにしろ!うるさくてたまらないな...」

(51) “어유... 저놈 때문에 불안해서 도저히 발 뻗고 잠을 못 자짚네.” (ㅎ)

「ああ...あいつのせいでとてもじゃないけど安心して寝られないな。」

上の三例は、野間の言うところの「境遇を述べる」하짚다に相当するものであり、「わからない」「～してたまらない」という無意志動詞的な用言や否定の副詞 ‘못’ と共起し、「何々しそうだ」「何々だ」という態度や心的な感情の訴えを表す(野間 1988:63)ものである。主体が話し手の場合、半数以上がこの「境遇を述べる」하짚다と共起したものであった。「事態を將然的に判断する」形式である-짚-と-네(요)が共起することで「今、自分はまさにこういう状況、状態にある」という話し手の感情や判断が強く現れる。

次は意志動詞と共起した例である。

- (52) “박지섭씨 자네를 다시 믿어 보겠네. 자네한테 거는 기대가 아주 커!” (중)

「パクチソプ君, 君をもう一度信じてみよう。君にかかっている期待はとても大きい!」

- (53) “자네 널까지 새 아이템 내놔. 만약 이렇다 할 아이템을 못 내놓을 땐 자네 거취문제를 다시 한 번 생각해 보겠네.” (중)

「君, 明日までに新しいアイテムを出したまえ。もしこれだって思うアイテムを出せない時には君の進退問題をもう一度考えるぞ。」

例文(52)(53)は主体が話し手で, 「信じる」「考える」といった意志動詞が用いられていることから, 野間の言うところの「去就を述べる」하겠다と共起している例である。3.1で考察してきたように-네(요)は, 主体が話し手で, 共起する動詞が非過去形の場合, 主に無意志動詞と共起し, 発話時における話し手の心的活動や内的状態を表す。また, 意志動詞と共起した場合でも, その動詞は話し手の意志に関係なく, ある状況に至ったことに気づいた場合に使用されることを確認してきた。このことから例文(52)(53)のように意志動詞と共起した場合は, 等称の-네として解釈できるのではないかと考えられる。言い換えれば, 半言-네は主体が話し手で, 動詞が非過去形の場合は意志動詞と共起しにくいと言えそうである<sup>12)</sup>。

次は主体が聞き手, 第三者の例である。

- (54)도영: “지섭씨 축하해요.” 조아: “지섭씨 기운 펴낼 나겠네.” 지섭: “고맙습니다. 걱정해 주셔서.” (중)

トヨン「チソプさん, おめでとうございます。」チョア「チソプさんバリバリ元気が出そうね。」チソプ「ありがとうございます。心配して下さって。」

- (55)도영: “승욱씨 어땀어요? 학교 다닐 때...” 오준: “한마디로 완벽한 친구였죠. 우리들의 일그러진 영웅이 아니라 우리들의 반듯한 영웅이었어요.” 도영: “승욱씨 집에도 가 봤겠네요?” (중)

トヨン「スンウクさんどうでしたか? 学校に通っていた時...」オジュン「一言で言えば完璧な友達でした。我々の歪んだ英雄ではなくて我々のまっすぐな英雄でした。」トヨン「スンウクさんの家にも行ったことがあるでしょうね?」

- (56) “아~ 딸만 둘! 그럼 따님들이 사모님 닮으셔서 아주 예쁘구 귀엽겠네~.” (멋)

「あー, 娘さんが二人! それなら娘さんたちは奥様に似てとてもきれいでかわいいだろうなあ。」

- (57) (料理が下手だという話をしている)



“지 에밀 답아서 그래.” “그럼 애도 짱이겠네?” “당연하지.” (크)  
「おまえの母さんに似てそうなんだ。」「それならこの子もだめだろう  
ね?」「当然だよ。」

例文(54)(55)は主体が聞き手であり，(54)は非過去形の動詞と，(55)は過去形の動詞と共起した例である。また，例文(56)(57)は主体が第三者で，それぞれ形容詞，指定詞と共起した例である。主体が聞き手，第三者の場合には，話し手が何かを見たり，聞いたりすることによって知ったことを，発話時において認識したことを示すといった点で，これまで考察してきた-네(요)の意味，用法と違いは見られないが，-ㄷ-と共起することで，認識した事態を話し手が押し量りつつ発話していると言えるだろう。

#### 4. 終わりに

本稿では，現代朝鮮語の終止形語尾-네(요)について，676例の用例を基に考察した。考察に当たって-네(요)と-ㄷ네(요)に分類し，事態の主体別にとり得る品詞や過去形，非過去形との共起関係に着目して分析を行った。

まず，-네(요)についての考察の結果，事態の主体が話し手の場合，無意志的な用言と共起し，発話時に起こった話し手の心的活動や内的状態を表す。動詞の過去形と共起した場合には，意志動詞，無意志動詞ともに共起可能であるが，話し手の意志とは無関係に起こった出来事や状態に気づいたことを表し，文脈的意味として「後悔」を表すこともある。また，形容詞の過去形と共起した場合にはさらに検討する必要があるが，過去に起こった感情や出来事を回想し，それを発話時に呼び戻して発話する場合にも使用されるようである。

事態の主体が聞き手や第三者である場合，これまでの先行研究で特徴づけられてきた「現在，知覚したこと」や「認識した事実」を述べる際に使用され，文脈的意味として「感嘆」や「驚き」を表すという例が多かったが，この特徴づけによって説明し得ない用例も見受けられた。

次に，-ㄷ네(요)について考察したが，用例を分析していく中で，主体が話し手で非過去形の意志動詞と共起する場合には，等称の-네として解釈できるのではないかという提案をした。

以上の議論から-네(요)は，「話し手がある事態を発話時において認識したことを示す」形式であると考えられる。

今回の考察では，共起する副詞や，より詳しい文脈的意味を把握するまでには至らなかった。また‘-ㄷ다’，‘-어’での言い換え，会話における-네(요)の役割など今後，詳しく分析していかなければならない。これらは今後の課題となる。

[謝辞] 本稿は1999年度東北大学大学院国際文化研究科に提出した修士論文を改稿したものである。ご指導頂きました同大学大学院佐藤滋先生, 吉本啓先生, 堀江薫先生, 上原聡先生に心から感謝申し上げます。また, 本稿を修正するにあたって神田外語大学の菅野裕臣先生, 浜之上幸先生, 南潤珍先生に大変貴重なご意見を頂きました。ここに記して感謝申し上げます。

本稿は, 財団法人松下国際財団の奨学金を受けて行なわれています。

#### 用例を引用した資料一覧

作者	作品名	略号
권인찬, 박범수 ( <a href="http://like.sbs.co.kr/script.htm">http://like.sbs.co.kr/script.htm</a> )	‘좋아좋아’ (SBS)	(좋)
김진숙 ( <a href="http://www.imbc.com/drama/canlove/script/script_list.html">http://www.imbc.com/drama/canlove/script/script_list.html</a> )	‘사랑은 아무나 하나’ (MBC)	(사)
	‘멋진 친구들’ (KBS)	(멋)
( <a href="http://drama.kbsweb.co.kr/02_preview/db002list10.htm">http://drama.kbsweb.co.kr/02_preview/db002list10.htm</a> )		
이서균	‘301.302’	(3)
오승욱, 신동환, 허진호	‘8월의 크리스마스’	(크)
	‘가족시네마’	(가)
박계옥	‘남자이야기’	(남)
홍상수, 정대성, 여혜영, 김알아, 서신혜	‘돼지가 우물에 빠진 날’	(돼)
	‘물위의 하룻밤’	(물)
이정향	‘미술관 옆 동물원’	(미)
오시욱	‘생과부 위자료 청구소송’	(생)
강제규, 박제현, 백운화, 전운수	‘쉬리’	(쉬)
신영재, 김동빈	‘엄마에게 애인이 생겼어요’	(엄)
여혜영	‘올가미’	(올)
장선우, 임종재	‘우묵배미의 사랑’	(우)
	‘위령제’	(위)
조명주	‘연풍연가’	(연)
	‘인간시장’	(인)
임상수	‘처녀들의 저녁식사’	(처)
박정우	‘키스할까요’	(키)
조환유, 이정국, 김무령, 신철, 최수영, 한 진	‘편지’	(편)
( <a href="http://myhome.shinbiro.com/~woolly/script_kor.html">http://myhome.shinbiro.com/~woolly/script_kor.html</a> )		

#### 《註》

1) 文法用語は菅野(1988)に基づいた。

2) 分析にあたってご協力頂いた鄭在恩氏(1975年ソウル出身, 高麗大学校大学院国語教育

科在学), 申秀貞氏(1975年ソウル出身,ソウル在住), 鄭在容氏(1977年ソウル出身,ソウル在住), 吳貞純氏(1981年大邱出身,高麗大学校英語教育科在学)にこの場を借りて感謝申し上げます。

- 3) 用例の中には以下のようなものが見られた。  
 “그래도 요즘은 술만 먹었다 하면 사랑하는 여자가 생겼네...폭탄선언을 하겠네...  
 맨날 큰 소리라니깐요.” (멋)  
 「でも最近はお酒さえ飲めば好きな女性ができ...爆弾宣言をする...毎日大口ですからね。」  
 今回の考察では、このような間接的に用いられた発話等を除き、終止形のみでの考察を行った。
- 4) ムード, モダリティに関するこれまでの論議については張(1998)を参照のこと。
- 5) 日本語においても, モダリティには二つの側面があることが知られている(仁田(1991), 益岡(1991)などを参照)。また, 徐(1996:298-299)は, モダリティには主語に関する話者の精神的態度と関連した「認識的叙法(命題的叙法)」と話者自身と関連した「事件的叙法(行為的叙法)」の二つがあるとしている。
- 6) 参考までに高(1974)の分類表を挙げておく。

単独的場面での体系 (高 1974:86)

叙法	直接	回想	推測	確認
文体法				
説明	-다, -네, -오, -습니다	×	-리라	-렀다, -것다
疑問	-는가(-나), -습니까	-던가	-랴, -리오, -르까	
感嘆	-어라, -구나	×		
命令	-라, -시오, -십시오			
共同	-자, -세, -하십시오			

半言 (高 1974:85)

説明(約束)法	疑問法	感嘆法	命令法	共同法
-어, -지, -르께, -다(라)구	-어, -지, -나, -르까, -게, -다 (라)니	-(는,르)군, -구 면, -네, -니절, -니데, -거든	-어, -지, -라구	-어, -지, -자구

- 7) これ以降, 半言・上称形の<-네(요)>を-네(요)と表記する。
- 8) 張(1985)は‘-네’が「現在の知覚」を表すのに対して‘-더’が「過去の知覚」を表すとしている。
- 9) 事態の主体と文における主語を区別する。なお本稿では‘생각이 들다’や‘기운이 나다’のように主語が主体の心理的作用の一部と考えられるものを第三者として扱わなかった。
- 10) 無意志動詞とは勸誘形, 命令形をとれないものとする。
- 11) 感情形容詞, 属性形容詞については西尾(1987)を参照。
- 12) 伊藤(1989:17)は‘-네’を詠嘆形とし, 詠嘆形は履行的現在の意味を持たず, これは詠嘆形が意志表明の意味を表せないことに起因するのではないかと述べている。

《参考文献》

伊藤英人(1989)「現代朝鮮語動詞の非過去テンス形式の用法について」『朝鮮学報』131.  
 朝鮮学会.

- \_\_\_\_\_ (1990) 「現代朝鮮語動詞の過去テンス形式の用法について(1)－戮다形について」  
『朝鮮学報』137. 朝鮮学会.
- 生越直樹(1997) 「朝鮮語と日本語の過去形の使い方について－結果状態形との関係を中心に－」『日本語と朝鮮語 下巻』 国立国語研究所.
- 菅野裕臣(1988) 「文法概説」菅野裕臣, 早川嘉春, 志部昭平, 野間秀樹, 塩田今日子, 伊藤英人  
共編, 金周源, 徐尚揆, 浜之上幸 協力『コスモス朝和辞典』白水社. 1008-1048 所  
収.
- 西尾寅弥(1987) 国立国語研究所報告 44 『形容詞の意味・用法の記述的研究』 秀英出版.
- 仁田義雄(1991) 『日本語のモダリティと人称』 ひつじ書房.
- 野間秀樹(1988) 「<하겠다>の研究－現代朝鮮語の用言の mood 形式をめぐる」『朝鮮  
学報』129. 朝鮮学会.
- 益岡隆志(1991) 『モダリティの文法』 くろしお出版.
- 高永根(1974) 「現代国語의 尊卑法에 對한 研究」『語学研究』 第10卷 第2号 서울大学  
校 語学研究所.66-91
- 徐正洙(1996) 「서법」 수정증보판 『국어문법』 한양대학교 출판부.
- 윤석민(1996) 「현대국어의 문장종결법 연구」 서울대학교 博士学位論文.
- 이익섭, 채완(1999) 『국어문법론강의』 学研社.
- 李智涼(1990) 「叙法」『国語研究 어디까지 왔나』 東亜出版社. 358-367
- 張京姬(1985) 『現代国語의 樣態範疇研究』 塔出版社.
- \_\_\_\_\_ (1998) 「서법과 양태」『문법 연구와 자료』(이익섭 선생 회갑 기념 논총)태학사.
- Lee, Hyosang(1991) Tense Aspect and Modality :Discourse-Pragmatic Analysis of  
Verbal Affixes in Korean from a Typological Perspective. University of  
California.382-414
- Lee, Keedong(1993) A Korean Grammar on Semantic-Pragmatic Principles 한국문화사.  
24-29

## 現代朝鮮語의 終結語尾<-네>에 대하여

타이라 카오리  
고려대학교 대학원

본 研究는 現代朝鮮語의 終結語尾<-네>의 意味와 用法을 實際의 用例를 통하여 考察한 것이다. 終結語尾<-네>에는 待遇法의 觀點에서 하계體, 반말體 그리고 해요體의 3 가지가 있는데, 본 研究에서는 반말體와 해요體의 <-네>를 分析의 對象으로 했다.

<-네>는 會話에서 쓰이는 形態인데, 發話의 狀況에 따라 多樣한 機能을 보여 준다.

主體가 話者이고, 用言이 非過去形의 無意志動詞나 形容詞와 結合한 경우, 話者에게 無意識적으로 생기는 現在의 感情을 나타낸다. 또한 動詞의 過去形과 結合한 경우는 [지금 어떤 事態를 깨달은 것]을 의미한다. 主體가 聽者나 第三者일 경우에는 既存의 研究에서 밝혀 왔던 바와 같이 話者가 [現在 知覺]을 통하여 [認識한 事實]에 대한 [感嘆]이나 [놀라움]을 나타낸다.

그러나 이 意味로 <-네>의 사용을 다 說明할 수 없으며, 본 研究에서는 “話者가 어떤 事態를 發話時點에 있어서 認識한 것을 나타내는 形式” 이라고 提案했다.